



1 学校の教育目標 自己理解・自己錬磨・自己表出  
 2 経営方針 「気づき、考え、行動する」生徒の育成を目指す学校作り

※ 太字ゴシックは川内中学校の重点項目

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策(○考察●改善方策)	学校関係者評価委員の評価
			教職員	生徒	保護者		
生徒指導	<b>いじめや非行への対応</b>	いじめや非行を許さない毅然とした態度で生徒指導に取り組んだ。	3.4	3.7	3.1	○ 生徒指導上の課題に対して、個別の相談対応や指導だけでなく、学級活動や学年集会等を用いて集団で考える時間を設定し、課題を他人事としない意識の醸成を図っている。 ● 安定した登校に向けての連絡方法等の工夫がなされている。今後もロイノートやeライブラリ、Teamsなどの通信機器の活用を進め、一人一人に合った学習保障やつながり方を見つけていけたらと考える。 ● 決まりやルールを守ることで、みんなが気持ちよく生活できるという意識を強く持たせていけたらと考える。挨拶については、生徒会を中心とした呼びかけ等を継続して行う必要がある。 ○ 学年主任を中心とした学級担任間での情報交換、生徒指導との連携や、生徒指導部による学年を越えた情報共有等を実施することができている。今後もチームとしての取り組みを継続していく。 ● 学級担任を中心とした教育相談や日記指導だけでなく、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携も積極的に進めていき、一人一人を大切に相談体制の確立に努める。	いじめの認知件数に対する対応解決数の割合が高くなってきている。小さな声であっても「聴く」姿勢を継続してほしい。 ● 家庭や地域に関することで民生委員も力になっていきたい。いつでも声をかけてもらいたい。伴走型支援を大切にしていきたい。 ● 挨拶が向上してきている。あいさつ運動を継続し、モデルとなる生徒を増やしていくことで挨拶の声を元気づけるとよい。 ● 「ふれあいタイム」は生徒からの希望によって様々な先生が相談できる体制を整え対応しているのはとても大切なことである。 ● 昨年度と比較し保護者の評価が高くなっているのは、日常的に学校の様子を伝えることができる生徒が増えてきている現れではないか。
	<b>不登校への対応</b>	不登校解消に努めるとともに、不登校生に対して適切な指導や支援を行った。	2.9				
	基本的な生活習慣の定着	挨拶や決まりの遵守など基本的な生活習慣が身に付くよう、指導や支援を行った。	3.4	3.5	3.2		
	生徒指導体制の充実	校内の連携を図り共通理解のもと、適切に生徒に関わる積極的な生徒指導に取り組んだ。	3.6				
	相談体制の充実	教育相談等を通して、生徒のいじめや悩みの早期発見・早期対応に努めた。	3.4	3.3	3.2		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	教科の特性を生かしながら、基礎・基本の定着を図る取組を継続して行った。	3.5	3.2	2.8	○ 保護者の方から学習計画書の作成やテスト前の学習相談を実施したことについて高く評価していただいた。ドリルコンテンツなど目標を持って基礎基本の定着に向けて学習に取り組ませる。 ● 一人一台端末の持ち帰りを活用し、eライブラリ等を用いて個々の力に合わせた家庭学習を進めていくことで自主学習の幅を広げていくことが可能である。 ○ 市や関係機関と連携しながら体験的な学習活動を実施することができた。学校から出向くだけでなく、オンラインも含めて市や関係機関から来校してもらう形での活動も取り入れていく。 ● 職場体験について、地域に根ざしたより多くの事業所で活動することができたらと考える。学校運営協議会や関係機関と連携し、幅広く事業所の掘り起こしを行っていく。 ○ 校内での生徒同士の学び合う場を工夫して作り出すことができていた。校内だけでなく東温市内の中学校間においても情報交換等を行うことで生徒の学習意識を高めることができる。	保護者に情報が十分伝わっていないのではないか。学校で学習したことなど家庭で普段話ができているかどうかといったことにもつながってくる。 ● 小学校でも学習時間調査を行っているが、中学生ともなると時間よりも内容が大切である。生徒には自主的に家庭学習に取り組んでもらえるとよい。 ● コロナ禍で、生徒は学校以外でのコミュニケーションをできる場を欲していると思う。状況を見てできるだけ体験的な活動の場を作ってほしい。 ● 進路については、子どもの考えと保護者の期待との間にずれがある場合がある。子どもの気持ちに寄り添う姿勢が大事である。 ● 生徒がふるさとを愛し、将来もどってくることができるよう、地域とふれあう場面を学び合いの一つに取り入れてもらえるとよい。
	<b>家庭学習の充実</b>	生徒一人ひとりの実態や学年に応じた、家庭学習の充実を図るための指導・助言を行った。	3.1	3.2	2.6		
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	体験的な学習や問題解決的な学習を、積極的に授業に取り入れた。	3.2				
	進路指導の充実	進路学習指導計画にもとづいて進路学習を実施し、自己の生き方を考えさせた。	3.4	3.5	2.6		
	<b>学び合う授業の創造</b>	生徒の学習意欲を高めるために、学び合いの場を工夫して設定した。	3.3				
豊かな心・健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	教育活動全般を通じて、生徒の道徳性を身に付けようと努めた。	3.4	3.7		● 生徒、教員ともに協力して活動に取り組めた。今後も校内研究授業等を計画的に実施し「考える道徳」議論する道徳」についての実践を積み重ねていく。 ○ 「魅力ある学校づくり」を目指して、生徒会を中心とした仲間づくりや集団づくりに関する学校行事や学年部の計画による学年集会、各学級での学級活動を推進してきた。 ○ 校内マラソン大会の生徒の感想から学年を越えた高め合いが見られた。また、大会に向けて自主的に練習する生徒もおり、健康づくり・体力づくりに対する意識も向上することができた。 ○ 同和問題をはじめとする様々な人権問題について、系統的な指導計画を立てて学習を進めてきている。教職員の人権意識の向上を図るため、今年度も地域の関係機関と連携しながら研修を積み重ねている。 ● 授業だけでなく、様々な活動において生徒一人ひとりが「できる」を実感する場面が増え、自尊感情を高めることができてきた。できたときの喜びを味わわせる場を工夫していく。 ○ 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策、熱中症対策等との両立を実践することができた。生徒は制約のある中大きなけが等もなく意欲的に活動することができた。	道徳教育は長い時間かけてやっていくものであり、すぐに結果が出ないところもある。道徳実践力が高められるようじっくりと取り組んでほしい。 ● 「魅力ある学校づくり」の仲間づくりの取り組みが保護者にもよく伝わっており、高い評価に結びついている。 ● 苦手な生徒もいると思うが、校内マラソン大会のような実際にやってみて、それぞれにとって実感を持った活動になることで得られるものも多い。 ● 東温市福祉館と連携しての教員向けの人権学習会等、生徒の人権意識を高めるために努力されている。 ● 一部の保護者から信頼関係を築くために生徒の意見にもっと耳を傾けてほしいという意見があった。意見を出しにくい生徒への配慮も必要である。 ● 今後地域との連携により部活動が形を変えていったときに対応できる準備を進めていく必要がある。
	<b>仲間づくり・集団づくり</b>	学校生活アンケートや魅力ある学校づくりアンケートの結果を活用して、望ましい集団づくりに努めた。	3.4	3.8	3.3		
	健康づくり・体力づくり	日々の生活の中で、健康管理や体力作りに努めるよう生徒に指導・助言を行った。	3.6	3.7	3.6		
	<b>人権・同和教育の推進</b>	教育活動全般を通じて、生徒に人権感覚を身に付けさせるための指導を行った。	3.4				
	自尊感情の高揚	生徒一人ひとりのよさに目を向け、それを称揚することによって自尊感情の高揚に努めた。	3.3	3.5			
	部活動の充実	部活動の意義を生徒に理解させ、充実した部活動を展開した。	3.1	3.6	3.3		
特別支援教育	<b>特別支援教育の充実</b>	生徒一人ひとりの実態や特性の理解に努め、生徒の状況に応じた学習指導や助言を行った。	3.3	3.9		○ 教職員全員がチームとなって生徒に寄り添い、個に応じた支援をしていくよう取り組んでいる。今後もさらに関係機関との連携を強化し、それぞれの進路を見据えた指導に生かす。	● 生徒は落ち着いた環境の中で中学校生活を送ることができている。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	継続した登下校指導を実施し、登下校の安全確保や、生徒の交通ルール、マナーの向上を図った。	2.9	3.8	3.3	● 生徒の登下校時の自転車のマナーについて十分できているとはいえない。登下校時の交通安全指導と見守り活動の強化を図っていく。 ○ 防災教育についての本校の取り組み「サマー防災デー」「クリーン川内」について、ホームページ等による紹介により保護者の方々にも広く知っていただけるようになった。	一部生徒の中に自転車と並進をしているという意見があった。安全指導を地域も連携して推進していければと考える。 ● 「サマー防災デー」では学校運営協議会で提案されたマイタイムラインの作成することができていた。防災教育の1つとして継続してほしい。
	防災教育の充実	保護者や地域との連携を図り、防災に関する生徒の意識を高め、「自助から共助」への防災教育を展開した。	3.3	3.8	2.9		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	「学校通信かわうち」やホームページなどにより、学校の情報を分かりやすく公開した。	3.6	3.6	3.2	● マチコミのタイムラインを活用することで、情報伝達の幅が広がった。今後はホームページだけでなくマチコミについても各担当(学年、部活動など)で分担し、できるだけ新鮮な情報を届けることに努める。 ○ コロナ禍ながら職場体験や「クリーン川内」等地域の方々々に教育活動に携わっていただける機会を持つことができた。	行事予定表にアルミ缶回収の日を載せてほしいという保護者からの意見があった。これまで以上に地域も協力しやすくなると思う。 ● 生徒は「クリーン川内」や職場体験等、地域の施設を活用した学習を通して充実感を感じていることが評価に反映されている。
	地域教材の有効活用	地域の人材や施設・自然などを取り入れた授業や活動を行った。	3.3	3.3	2.8		
特色ある学校づくり	<b>ボランティア活動の充実</b>	生徒がボランティア活動への興味や意識を高めるための、工夫や支援を行った。	3.1	3.6	2.4	● アルミ缶回収運動に加えて、今後エコキャップ回収運動についても地域に「エコキャップ回収箱」を設置させていただく等、生徒が主体的に活動できる場づくりに取り組んでいく。 ○ 伝統として「気づき、考え、行動する生徒の育成」が生徒の中にも定着してきている。今後も生徒の思考の流れに沿った支援を行っていく。	生徒会を中心としたアルミ缶回収運動等のボランティア活動の再開を楽しみにしている生徒がいる。状況を見てまた始められるとよい。 ● 生徒から、生徒会や各種委員会の呼びかけを重点的に力を入れて取り組んでほしいという意見が見られた。生徒主体の活動へ支援をお願いしたい。
	<b>目指す生徒像の意識の定着</b>	目指す生徒像「気づき、考え、行動する生徒」に対する意識を定着させるための、工夫や支援を行った。	3.3	3.5			
施設・設備の充実	ICTの有効活用	教育効果を高めるために、電子黒板やタブレットPCなどの教育機器を用いた授業を行った。	3.1	3.7		● ICT支援員等との連絡などを密にとることが大切である。今後は校務系の端末とGIGA端末の使い分けを上手に行うための研修も必要である。 ○ 学校安全計画(危機管理マニュアル)の見直しを適宜行い、安全・安心な教育環境の整備に努める。施設・設備の修繕、廃棄についても計画的に進めていく。	タブレットが持ち帰れるようになり、自宅待機している生徒や不登校の生徒等の学びの場が広がることは大変よいことである。 ● 目に見える施設・設備の充実については保護者からの評価も高い。これからも愛校心を持って大事に使ってほしい。
	施設・整備の安全管理	定期的な安全点検の実施により、安全・安心な教育施設環境を確保した。	3.4	3.8	3.4		